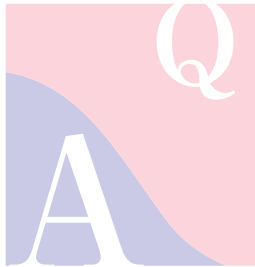


ハロー！健康



おくすり相談 Q&A



「ピリンアレルギー」について 教えてください。



薬剤師 佐藤 美佳

病棟で患者さんに服薬指導をする時、「今までにお薬を飲んだり点滴を受けられた時に、副作用が出たことはありますか？」とお伺いします。入院中に限らず、街の薬局でも薬剤師からそのような質問を受けることがあると思います。そんな時、「アスピリンアレルギーです」というお答えをいただくことがあります。しかし、よくお話を伺うとアスピリンアレルギーではなく、ピリンアレルギーの場合があります。反対にアスピリンアレルギーであるにもかかわらず、ピリンアレルギーとお答えになる患者さんもいらっしゃいます。

ピリン系のお薬とは、ピラゾロン骨格という化学構造をもつ成分を配合した解熱鎮痛薬のことを言います。アンチピリン、スルピリン、イソプロピルアンチピリンなどの成分が、このグループに属します。主な副作用は、発疹や水泡であり、ひどい場合にはショック症状を引

き起こすこともあります。現在医療用医薬品においては、ピリン系の成分を含むものは少なくなりましたが、一部の内服薬や注射薬には含まれています。また市販の総合感冒薬などにはイソプロピルアンチピリンが含まれたものがあります。

一方、解熱鎮痛作用、血小板凝集抑制作用のあるアスピリンは、語尾にピリンとついていますが、ピリン系のお薬ではありません。アスピリンは商品名であり、成分名はアセチルサリチル酸です。アスピリンアレルギーも存在します。

ピリン系のお薬に限らず、自分がどのお薬に対しアレルギーがあるのか正しく認識し、医師、薬剤師に伝えることは自分自身を守る上でとても重要です。アレルギーのある方は、病院・診療所等に受診の際、必ず医師、看護師にその旨を伝えましょう。

アロカルト！

コーヒー

コーヒーは世界中で飲まれている嗜好飲料の一つであり、私たちにとっても身近な飲み物です。愛飲されている方も多いのではないのでしょうか。



薬剤師 岡澤 美貴子

コーヒーにはカフェインを始めとして、様々な成分が含まれています。カフェインには、中枢神経を興奮させて目覚めさせる作用や利尿作用などがあります。また、コーヒーには炭水化物や脂肪成分が含まれていますが、コーヒーのカロリーは低く、通常ブラックコーヒー一杯あたり約4kcal程度とされています。これは、カフェインがエネルギー代謝を促進することを考えれば、ほとんど無視できるエネルギー量と考えられます。

最近、雑誌やテレビなどで「コーヒー飲用者で2型糖尿病の発症リスクが低下した」「ダイエットに効果がある」という情報を耳にします。しかし、これについてはまだ十分に情報があるとは言えません。また、コーヒーに含まれているカフェインには胃酸分泌を促進する作用があります。そのため、コーヒーを大量に摂取すると胃炎になったり、胃炎が悪化したりする恐れがあります。ダイエットの目的でコーヒーを大量に飲むことは避けた方がよいでしょう。もとより、コーヒーを飲むとやせられると過信し、コーヒーに砂糖をたくさん入れて飲んだり、甘いものをたくさん食べたりしてしまえば逆効果になってしまいます。

良い香りのコーヒーは、リフレッシュタイムを豊かなものにしてくれます。正しい知識を得た上で、コーヒータイムをお楽しみください。